

委員および一般からのご意見

委員からの流域委員会の審議に関するご意見、ご指摘 (2002/8/10 ~ 2002/9/27)

委員からのご意見、ご指摘はありませんでした。

一般からの流域委員会へのご意見、ご指摘 (2002/8/10 ~ 2002/9/27)

	発言者 所属等	傍聴 希望	受 取 日	内 容
1	萩本宏氏	×	8/11	<p>(「日本雑草学会の東北支部の機関紙「東北の雑草 2:6-13(2002)」の掲載原稿の河川敷の雑草に関する部分です。)</p> <p>除草剤の創製研究からみた雑草学と雑草管理* 萩本宏**</p> <p>要約 雑草学と除草剤の創製研究、特に生物学的研究との関わりおよび雑草管理と除草剤の関わりについて考察した。また、わが国の除草剤の創製研究がおかれている困難な現状を企業経営の視点から考察し、雑草管理と除草剤の関係の相克から協調への転換、今後の雑草学の新しい分野としての景観や環境問題への取り組み、学会支部会への期待も併せて論じた。</p> <p>河川に係る記載部分</p> <p>著者は、雑草学の取り組むべき重要な分野として、景観や環境の問題があると考え。農村地域は、擬似自然が豊富なために景観に対する配慮を欠きかねない。他方、市街地の景観の劣悪さは、先進国を一度でも訪ねれば容易に認識できることである。著者の住む京都市は、わが国の代表的な文化観光都市かつ伝統産業由来のハイテク産業都市であるが、町並みや街路は特定の地域を除いて、古典的でもなければ近代的でもなく、美しいとは言えない。京都は、千年の王城の地という威光を背に、自然景観に恵まれている(いた?)うえに、古い建築物と庭園が点在し、芸術品や伝統行事、古典文学など先人の遺産が多いから美しいと錯覚しているが、実体は自然と遺産を食いつぶしているだけである。調和を欠いた建物と無粋な電柱電線が醜さの根源であるが、道路、空き地、堤防などの雑草の問題も無視できない。最近、著者が京都の景観で注目しているものに河川がある。街の中心を流れる鴨川(賀茂川)の景色は、最近、川らしくなり、水遊びする子供や釣り人、愛鳥家が増えた。これは、流れを自然にまかせて、中州や岸辺の土砂の堆積を残し、雑草もそのままにしたので、水流に湾曲、緩急、深淺、陰影ができて、水辺移行帯的な状況が出現し、魚や鳥が棲みよい環境になったからであると推察する。しかし、堆積した土砂には木本性植物が生え始めており、水害防止に責任をもつ行政、雑草を嫌う住民、雑草の刈り取りに反対する愛鳥家、鳥害を恐れる魚協の相互の利害対立が始まっており、雑草管理技術の確立が急がれる。また、京都は、三方を山に囲まれており、かつて赤松の多い里山で、特上の松茸を産出したが、放置されて照葉樹林に遷移するか乱開発の波にさらされている。全国で里山の再生がいわれているが、里山問題は、雑草・雑木管理を抜きにしては解決しない。京都を例に挙げたが、これらの問題は全国共通である。農村地域の景観も、給油所、パチンコ店、スーパー、物流倉庫などが乱雑に建てられ、決して美しいとはいえない。良</p>

	発言者 所属等	傍聴 希望	受取 日	内 容
				い景観をつくることは、人々に安らぎを与えるとともに、草むらへの空き缶のポイ捨てや不法投棄にみられるような不道德をなくすことから気候の緩和、大気・水質浄化、土壌保全、野生生物保護など良好な環境をつくることに通ずる。市街地環境の雑草問題は、既に、2000年の第16回シンポジウム（京都）で取り上げられているが、農村地帯も含めて雑草学の領域を農業から景観と環境に、農学分野から工学分野に拡大することも検討する時期にあると考える。 以上
2	萩本宏氏	×	8/12	6/24に頂いた意見に、漁協が1日2000円を徴収している旨の記載があり、渡辺委員のご要望により、漁協名等について確認した結果、以下のような返答が届きました。 ゴールデンウイーク頃（4月末？）に、漁協の役員さんが女のお孫さんを連れて賀茂川で八工釣をされている微笑ましい写真付きの釣解説記事に掲載されていたと記憶しております。（残念ながらこの記事に掲載した京都新聞を捜せ出せませんでした）。これには、「賀茂川にはアマゴもいるが、簡単には釣れない。初心者には八工釣がよい。餌としては川虫が良いが、慣れない人には採取が困難であるから市販の練り餌を用いると良い」（大意）とあり、「2000円で1日楽しめる」というような表現で遊漁料のことが書いてあったと記憶しております。 今の時代は、八工釣の餌まで買うのか、また、2000円とは高い遊漁料だと思い、5月18日（土）に京都府立植物園に行った帰途、北大路橋袂の釣具店に立ち寄り、市販の餌と遊漁料について尋ねた次第です。 これも大昔の記憶で極めてあいまいですが、幸田露伴だったか、有名な作家が京都大学文学部の講師（？）になって京都に移り住み、川で釣りをしている遊漁料を請求され、こんなみみっちい街で暮らせるかと東京に帰ったという話を讀んだ記憶がありますので、八工釣の遊漁料が気になった次第です。 従いまして、漁協名は存じませんが、鴨川を管理する漁協であると考えてのが自然です。 私の方にも、聞き違いや思い込みがある可能性もありますので、遊漁料のことが確認できましたらお知らせ賜りますと幸甚です。 御活躍の程お祈り申し上げます。
3	生沢嘉男氏	×	8/19	淀川水系流域委員会様 地元東淀川に在住しております生沢嘉男と申します。 私は40年前、昭和35年頃より淀川ゴルフ倶楽部でプレーをして居ります。長年プレーをしていまして感じた点を申し上げます。まづ最初にゴルフは健康によい事です。スポーツは多々ありますが、やはりゴルフの方が面白く仲間も出来、川原のさわやかな空気が胸一杯に吸える点です。色々とゴルフに反対する風潮は続いているようですが、既にゴルフは庶民的なスポーツとなっています。又河川敷ゴルフ場でするゴルファーを贅沢よばわりするのは的を得ていないような気がします。 淀川ゴルフ倶楽部は昭和47年河川改修で大堰が出来の際、工事に協力し、大幅に縮小されてショートホールとなり、その後の営業努力により、何とか続けている等非常に気の毒な目に会って居ります。 私は月に数回自転車でする淀川ゴルフ倶楽部に来ます。私共シニアプレーヤーの夢

	発言者 所属等	傍聴 希望	受取 日	内 容
				<p>は近場でゴルフをしたい事です。又この都会の中であるからこそ、緑のゴルフ空間を提供して頂き、多くのシニアプレーヤーが、人生の喜びを少しでも味わいたいです。淀川ゴルフ倶楽部は安価であり手軽に近く存在するゴルフ場として、大阪市内には欠かせない緑の空間です。是非面積の増加と存続を希望して止みません。</p> <p>追記 淀川ゴルフ倶楽部は従業員も親切ですし、経営者も質素に暮らしておられます。又このような経済環境の悪い中、かなり節約されて営業努力し、維持されております。</p> <p>57年の河川工事完成迄は水害の為かなり苦しんで維持していたようです。完成後もショートホール化し営業は現在迄も大変だったと思われます。そんな中で我々をいつも笑顔で迎えてくれます。我々シニアにとってはかけがえのない存在です。</p>
4	田中静男氏	×	8/19	<p>水系管理については、御苦勞の多い事と思います。小生、河川敷をありがたく利用させております。（遊歩道、魚釣り、ゴルフ）</p> <p>ことにゴルフが好きですが年齢（77才）とともに体力もなくなり健康保持のため淀川河川敷のゴルフ場によく行きます。ゴルフ場とゴルフ場周辺は管理が行き届いておりますが、ゴルフ場を少し離れるとゴミ、電化製品、家具等が捨てられたり、又、事件が起こったりと無法地帯になっております。それらの管理をもっと良くしていただけないものでしょうか。管理面からみても河川のゴルフ場はプラスになっていると思います。</p>
5	「海洋の空」 研究グループ 赤井一昭氏	×	8/23	<p>中国からの河川整備について理解を深めるため、日中友好海洋開発訪中団(9/15～24日)についてのご案内が届きました。</p>
6	滋賀県農政水産部水産課	×	8/29	<p>滋賀県農政水産部水産課よりブライアンウィリアムズ氏についての意見に対し意見書が届きました。別紙1を参照下さい。</p>
7	松下正義氏	×	9/2	<p>淀川ゴルフ倶楽部への期待</p> <p>初心者も老人もいつもプレーが可能 車がなくとも公共のバス、電車の利用が可能 この不況化に手頃な値段でプレーが可能 緑の芝生から（フェアウェイ）市街地のビルが遠望できる 庶民の憩いの場としてのんびりとプレーできる</p> <p>以上の条件により行政はゴルフ場の整備に援助、協力して広報誌等で広く紹介していただきたい。このゴルフ場は日本のパブリックゴルフ場として伝統ある灯を消さないで存続して下さることを切に期待するもの一人であります。</p>
8	金屋敷忠儀氏	×	9/6	<p>委員会の運営について意見があります。</p> <p>一般から提出された意見に対して、委員会側からは何の反応が無い。聞きおくだけであるように見える。</p> <p>傍聴者の発言に対しても、同様に反応が無い。</p> <p>委員会の委員は「民には、言はしむべし、聞かせるべからず。」と考えているのか。</p> <p>提出された意見は「中間取り纏め」に於いて反映していると言うのか知らないが、少なくとも、取り上げられなかった意見に対しては、委員会の意見ま</p>

	発言者 所属等	傍聴 希望	受取 日	内 容
				<p>たは委員個人の意見としてでもよいから、反応を示すべきである。 提出された意見を無視するのはよくない。</p> <p>今まで発表された「中間取り纏め」でも無視されたか或いは採用されなかった意見が非常に多い。</p> <p>流域委員会の存在は一般には殆ど知られていない。この事実を委員諸公は充分認識しておく必要がある。一度事務局にでも使って、「流域委員会の知名度」を無作為に調査する必要を感じないのか。サイレントマジョリティの存在を忘れてはならない。</p> <p>調査に当たっては、答えを誘導するような設問は厳に避けなければならない。</p> <p>公開されている委員会の場で河川管理者側の事情説明はあっても、意見はまったく聞かれない。これでは議論を深めることは出来ない。</p> <p>敢えて言えば、委員の構成に偏りがある。</p>
9	日本野鳥の会 京都支部 中村桂子氏		9/14	<p>9月7日、現地対話集会に参加しましたが、対話集会では凡そこのような意見が言える雰囲気ではありませんので・・・今回の会合で感じた事は、野球場、ゴルフ場に河川敷を使用したい、という意見を聞かせて頂きました。</p> <p>河畔林を含む河川という環境はあらゆる生物多様な空間であり、それらは川が存在した頃から長い時間をかけてうけつがれてきたものです。</p> <p>そこには、すみ続けている数え切れない程の生き物たちがいて、それらにも生き続ける権利があります。そしてそれらを守る権利が私たちにはあるはずでず。そして何よりも次の世代を生きる子ども達に素晴らしい生態系を残し、受け継いでいく責任が私たちにはあります。人間の生活を守るための河川管理ではなく、人間の方が、自然に沿った生き方を考えて行くべきだと思います。</p> <p>どうすれば自然が自然のままであり続けることを理解していただくことができるのでしょうか。失ってしまった自然は絶対に取り戻すことはできないということを理解して欲しい。</p>
10	佐川克弘氏	×	9/17	<p>水質 WG 委員にご意見が寄せられました。</p> <p>別紙 2 を参照下さい。</p>
11	佐川克弘氏	×	9/19	<p>生き物保護のための立ち入り禁止地域についてのご意見が寄せられました。</p> <p>別紙 3 を参照下さい。</p>
12	NPOクリーンライフ21 事務局長 西田圭一氏		9/24	<p>私たちクリーンライフ21が、猪名川流域で行っている河川清掃のボランティア活動を通じての感想を申し上げます。</p> <p>私たちは、今年度も猪名川上流の余野川で河川環境の保全を目的とした清掃活動を行っています。また、今年初めて猪名川の下流（尼崎市・伊丹市）で同様の河川清掃を行いました。</p> <p>そのボランティア活動の事前準備のために、周辺自治体や河川管理者のボランティア担当窓口や公園管理窓口等に問い合わせを行いました。</p> <p>その時改めて思ったのは、河川が多く市の町村、場合によっては都道府県に跨って存在しているということでした。</p> <p>私たちにとって猪名川はひとつの河川であり、その管理をどこがどのように行っているかということは、日常的な感覚では関係のないことです。しかし、実際には猪名川という河川（高水敷）の管理は国を中心に各市町村が担っており、</p>

	発言者 所属等	傍聴 希望	受取 日	内 容
				<p>集めたゴミの処理問題ひとつをとってみても煩雑となります。</p> <p>私たちの行うボランティア活動に行政区画は関係ありませんので、猪名川のように両岸で自治体が違っているような場合は、両岸の自治体とどのように連携していくかが課題となります。</p> <p>また、周辺住民のみなさんに興味をもってもらうためにも、自治体の協力がかせません。そのためにも、自治体の横の連携をどうしていくかなど私たちのような市民団体がいくら行動しても自ずから限界があります。</p> <p>このように河川の環境保全・改善を考えるうえで、河川周辺の自治体の協力は欠かせないと思います。それも市町村の役割が大きいと考えています。</p> <p>淀川水系流域委員会では、市民参加による新しい河川管理が論議されていますが、この論議のなかで周辺自治体がどう関わっていくのか、その点についても検討をお願いします。</p>
13	社団法人 大阪自然環境保全協会 岡秀郎氏	×	9/24	<p>「淀川水系河川整備計画」において、国土交通省・余野川ダム建設などの余野川ダム事業を中止とする意見表明の要請、「淀川水系河川整備計画」に関する最終提案に向けての留意事項として、ご意見が寄せられました。</p> <p>別紙 4 を参照下さい。</p>
14	高尾瑞代氏	×	9/24	<p>しめ切り日よりずい分遅くなってしまいましたが、私は7月に足をけがしまして歩くことが不自由になってしまいました。でも、淀川ゴルフクラブにかようことでかなりましになり、今では普通に歩けるようになりました。フラットで無理なく軽くできるスポーツですし、遠くに行く必要もありません。ぜひ淀川ゴルフクラブを存続させて下さい。</p>
15	財団法人 日本野鳥の会 京都支部 中村桂子氏	×	9/25	<p>9月24日、淀川流域委員会を傍聴しました。</p> <p>平成12年1月、建設省河川審議会・管理部会に日本野鳥の会として出席する機会を得、竹村河川局長対し「平成8年に改正された河川法に、治水・利水、そして「環境保全」が加えられたが、具体的に何がどう変わるのか、京都の身近な状況を説明しながら尋ねた事が、まだ記憶に新しい。</p> <p>その後、関西から初めて立ち上がった「淀川水系流域委員会」の大きな流れに期待し、関西から河川の整備計画のあり方がどのように変わっていくのか、許す限り委員会を傍聴することになっている。</p> <p>それぞれの地域における過去数十年の河川整備を見据えた上で、現在の新しい整備計画が淀川から打ち出されることを見守りながら、当然、私たちに科せられるであろう川とともに生きる上での「覚悟」が必要であることも認識しているつもり。</p> <p>ところが、今日の会議の委員の発言の中に「河川管理に関する方針は、京都、大阪、滋賀、奈良等、それぞれ地域での事情を優先し、淀川の方針を打ち出すべきではないか」という今更ながらの発言にはとてもショックを受けた。それは全く逆だと認識している。長い歴史の中から、地域の事情を見据えた上で、新しい淀川河川整備計画が生まれようとしているのではないのか。</p> <p>私たちの意見がWGのどこかで反映されることを祈りつつ・</p> <p>ps、いつも空席の委員席が気になります。交代はあり得ないのでしょうか？</p>
16	奥中久米司氏	×	9/25	<p>21世紀は流域文化、文明時代ではないかと思っております。</p> <p>原因は古代の古跡(蹟)人間生活したようであります。</p>

	発言者 所属等	傍聴 希望	受取 日	内 容
				そして特に畿内古跡が多少おいと思っております。 大阪府、京都府等あとが発見されている。 流域都市計画関係市町村（首長）すると要求する。 環境政策特に注意すること。
17	佐川克弘氏	×	9/26	水需要管理 WG 委員にご意見が寄せられました。 別紙 5 を参照下さい。
18	佐川克弘氏	×	9/27	水質 WG 委員にご意見が寄せられました。 別紙 6 を参照下さい。



滋 水 第 779 号
平成14年(2002年) 8月28日

淀川水系流域委員会 庶務 御中

滋賀県農政水産部水産課長



意見書の提出について

貴委員会第17回琵琶湖部会参考資料2-1に掲載されました、ブライアン ウィリアムズ氏の意見「ヨシ帯造成のあり方」に対し、別紙のとおり意見書を提出しますので、よろしくお取り計らい願います。

担当者
漁場資源担当 福井
TEL 077-528-3874
FAX 077-528-4885

滋賀県農政水産部水産課

先日、当課の実施しておりますヨシ帯造成について、ブライアン ウィリアムズ氏の意見書が流域委員会に寄せられました。意見書の中には、誤解や事実と異なる点がいくつかありましたので、改めて当課の実施しているヨシ帯造成について紹介させていただきます。

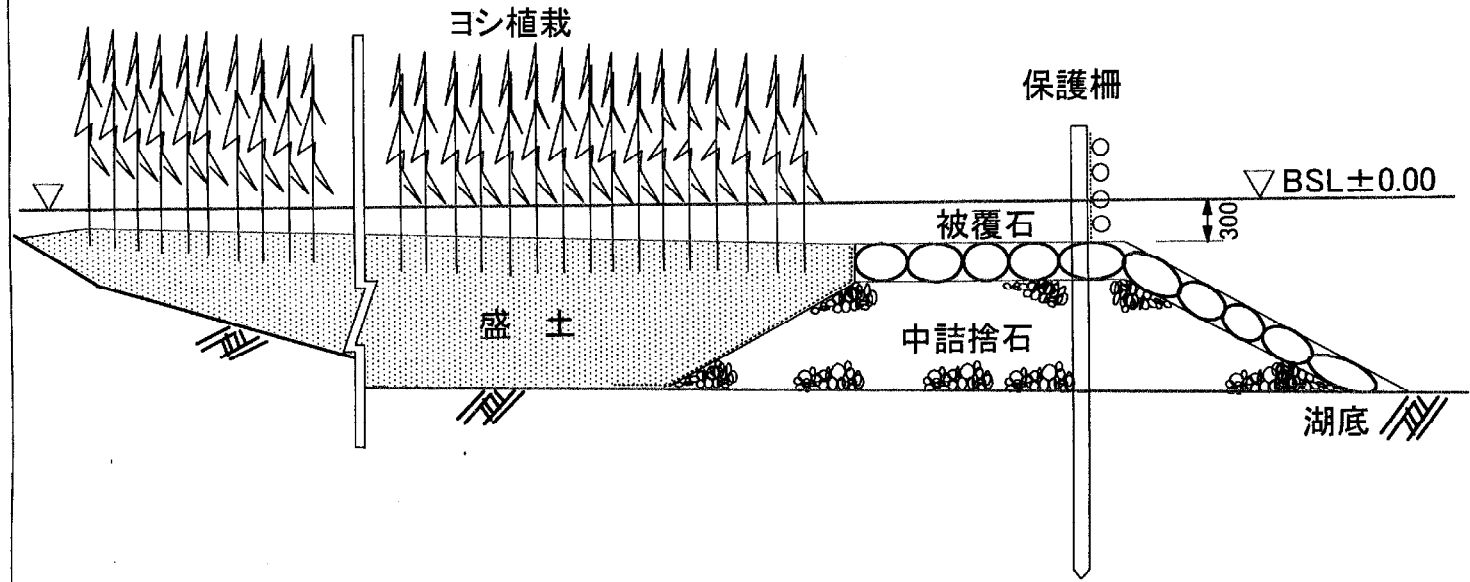
近年琵琶湖では、ニゴロブナ等の産卵繁殖場として重要な役割を果たしているヨシ帯が、減少しています。このため、当課では魚類の産卵繁殖場としてのヨシ帯を回復しようと、その造成に取り組んでいます。今までに近江八幡市および新旭町で事業を実施し、今年度は草津市およびびわ町地先の琵琶湖で事業を実施する計画です。

事業を実施する場所は、以前にヨシ帯が広がっていたが現在は衰退した水域を中心に、地元の市・町や漁業者の方等関係者の意見を聞いて決定しており、事業の実施にあたっては、関係者の方の理解を得て協力して頂いています。

当課の実施していますヨシ帯の構造について説明します。琵琶湖沿岸においてヨシの伸長に適した水深（30cm）まで土を盛って、そこにヨシを植栽しています。盛った土はそのままでは風波等により流失しますので、琵琶湖側には石を台形に、また魚の出入り口となる部分には、フトン籠（金網の籠の中に石を積めた物）積んでいます。ニゴロブナ等の稚魚が育つヨシ帯は、奥行きのあるものが好ましいので、水深などを検討しながら、なるべく奥行きのある形状としています。また、事業費については1ヘクタールあたり2億円をやや下回る経費がかかっています。

今までに完成したヨシ帯は、比較的順調な生育をみせており、春には魚の産卵も確認されております。今後も継続した調査を実施し、これからの事業に生かしていきたいと考えています。

ヨシ帯造成 標準断面図



淀川水系流域委員会
水質WG委員各位殿

2002. 9. 13
高槻市 佐川克弘

今般水質WGを立ち上げられたことに対して敬意を表します。最終提言に向けて、時間が限られています。精力的に中身の濃いご検討を念願しております。

さて水質問題は多岐にわたり、河川整備計画ではカバーできない問題も多いとは思いますが、宗宮委員が指摘されている通り（H14. 9. 12第14回委員会配布資料3-1-2）「20世紀中に実施した河川サイドの淀川水系での水質管理について総括する必要」があると考えます。またこれまでに今までの河川整備がもたらした治水と利水に終止し生態系に対する配慮がほとんどなかったことが多くの方々から指摘されておりますが、水質問題についても同じことが言えるのではないのでしょうか。（誤解のないよう申し上げますが、私は治水も利水も無用だと言っているわけではありません。高度成長期急増した水需要に対して水資源開発は不可欠だったし、本来遊水地として開発を禁止すべき土地まで無計画な都市計画で「都市化」し、これを一手に河川の治水計画で支えてきたのは率直に評価しなければならないと考えております。この時基本高水の設定に行き過ぎがあったと言われておりますが）

ところで環境水質基準をクリアしていない琵琶湖の富栄養化については滋賀県が「富栄養化防止条例」を制定し、「マザーレイク21計画」（琵琶湖総合保全計画）を策定しました。国家レベルでは湖沼水質保全法（1985）環境基本法（1993）が制定されていますが、これに対して河川管理者は具体的にどのように対応したのか、そして何が出来、何が出来なかったのか是非検証していただきたいと考えます。また室生ダム、高山ダム、青蓮寺ダムなどでもアオコ、赤潮が発生している。これらは恐らく富栄養化にためとと思うが、下流で取水している浄水場にカビ臭対策を強めています。カビ臭対策なら浄水場の高度処理で解決済みではないかと考えられるかもしれませんが私はそうは考えておりません。というのは高度処理はオゾンを利用するため使用電力が大幅にふえているからです。使用電力が増えれば、それに比例して地球温暖化ガス＝CO²を大量に放出することになります。もし琵琶湖やダムの水質が改善され、その結果浄水場の原水の水質が

2-メチルイソボルネオール＝0.00001mg/l以下

ジオスミン＝0.00001mg/l以下

過マンガン酸カリウム消費量＝3mg/l以下

を満足すれば高度処理は無用となると考えられるからです。

ベルリンでは（日本とは異なり）水道の原水は伏流水を主体とする地下水を利用しており、人工的地下水づくりの一環でヴァン湖の水のリン含有量を40分の1にしているとのこと。琵琶湖のような大きな湖で、ドイツと同じことをやったら事業費がいくらかかるのか見当が付きませんが少なくとも人手をかけて作ったダムについては検討してもよいのではないかと考えます。

鯖田豊之「水道の思想—都市と水の文化誌」（中公新書）参照

布目ダムでは深層ばっ気施設、浅層循環施設で「水質保全に効果をあげている」（H12年度BYQ水環境レポート）とのですが、その成果を具体的に検証していただきたい。その際〈費用対効果〉の視点も当然忘れてはならないと考えます。（8月31日朝日新聞が報じた「水面をシートで覆ったら・・・アオコが消えた！」も比較検討してみてもよいのではないのでしょうか）

私は最近大阪府営水道の三島浄水場（H10年から高度処理施設を導入）を見学しました。ここでは生物処理施設が採用されており、さらに庭窪浄水場でも採用される予定とのことでした。ハニカムチューブと散気筒によるばっ気処理は元来「下水処理技術」のはずです。この「下水処理技術」を浄水場で採用していることは1970年代から比べるとかなり改善されたとはいえ現在でもNH₄-Nの濃度が問題点をかかえているからだと思われます。NH₄-Nは主として下水処理水に含まれているとのことなので、河川整備計画では解決できず、下水道・集落排水・合併式浄化槽の総合的整備計画と放流水質基準の見直しも必要と思われます。しかしこの問題も手をこまねくことなく、河川管理者が関係者と積極的に、しかも定期的に改善策を追及して行くべきではないでしょうか。

